

第3回 武蔵野市立武蔵野公会堂の改修等に関する有識者会議 議事要旨

- ・日時：令和4年8月24日（水曜日） 午後6時30分～8時30分
- ・場所：武蔵野公会堂第1・2会議室
- ・出席委員：小林委員、吉本委員、吉川委員、青木委員、花柳委員、町田委員
和久津委員、毛利委員（名簿順）
- ・事務局：総合政策部資産活用課長・市民部市民活動推進課長 他4名
- ・傍聴者：6名

1 開会

座長から吉本委員の紹介、吉本委員からの挨拶後、事務局から配布資料の確認が行われた。

2 議事

(1) 改修・更新の方針について

【座長】続いて、事務局より資料の説明をお願いしたい。

【事務局】（改善方針について資料1に基づき説明）ホール棟については、演出の幅の拡大や多様な用途に対応できる仕様を検討する。会議室棟は、既存会議室棟を既存不適合のまま残置し運用するという視点もあるが、市の内規による耐震性能向上のための補強工事や防火避難上の安全性を担保するため、慎重な検討が必要である。

（主な課題と解決方法の例を資料2に基づき説明）簡単なブロックプランと併せてまとめている。解決方法の例は、会議室棟の一部を駐車場側に設ける場合のものである。

（ホール棟の改善内容について資料3に基づき説明）機能向上も含めて、資料2より具体的にまとめている。平土間のイメージについて、図面や写真で示している。

（周辺の会議室及び練習室・スタジオについて資料4に基づき説明）公会堂から半径1kmまでのエリアを調査した。会議室については、同規模・同条件で貸し出しているのは武蔵野商工会館ゼロワンホールのみであり、この規模の会議室は中々無い。スタジオについては、資料から漏れている吉祥寺シアター稽古場を追加して欲しい。

【座長】資料1では、これまでの議論で出たキーワードと事務局での検討をもとにまとめていただいた。本日は特にこの内容について議論したい。前回出た具体的なご意見については、資料2・3でまとめられている。資料4では、代替となる会議室やスタジオは存在こそするものの、公会堂と比較し少し小さく料金も高めということが分かった。ここまでの説明について質問や意見があればお願いしたい。

【A委員】資料1「3 会議室棟の改善について」の欄で、「大きなコストがかかると想定される」とあるが、どのような想定をしてどの程度のコストが見込まれるのか。

【事務局】会議室棟の改善の中で今の法律に合わせるとどのようなコストがかかるかという質問だった。まず、何か増築をした場合に、という前提だが、建物が3階建て以上の場合、消防隊が突入するための開口部（非常用進入口）が必要だが、本施設には設置

されていない。開口部を設けるには外壁を取り払う必要があり、そこに大きな費用がかかる。

次に、地下の機械室がかなり老朽化しており、搬出ルートとなる階段が狭く、機械を取り出すことができないため、ピロティ部分のスラブに穴をあけ、取り出し、床を復旧しなければならない。

また、耐震性能については、2・3階は市の目標とする耐震性能を下回っているため、窓側に鉄骨のブレースを設けなければならない費用がかさむ。

必要最小限の改修を考えたが、かなり大きな費用がかかることが分かったため、費用対効果を考えると合理的ではないと整理した。

【A委員】会議室棟を新しく作るよりは費用はかからないのではないか。

【座長】会議室棟については次回以降議論することになるだろう。事務局によれば、会議室棟の新築と改修が同じだけのコストがかかりそうだということが分かったということである。その前提の上でどちらを取るかは考え次第だろう。

【B委員】市が公会堂に何を求めるのかを考えるべき。また、この有識者会議で、改修ありきの議論をするのか、議論を積み重ねて建て直しを要求することもあり得るのか。どのあたりでめどを立てていくのかの感覚があると議論しやすい。

【事務局】前回までの議論でもご意見をいただいたが、公会堂に何を求めるか、どのレベルまでを求めるかということだろう。竣工当初は集会施設として、芸術文化以外の様々な役割も求められていた。その後、公共施設が武蔵野市内に順次整備されていく中で、当初の集会施設としての重要度は昔とは違ってきている。ホールの役割のニーズが高まってきているのではないか。将来の面的な整備を考える中で、ホールに求められるニーズをどこまで考えるか、どのようなニーズを考えるかということだろう。事務局でも明確な答えは持っていないが、今まで使われてきたニーズを切り捨てるということではなく、今までに加えて、今までできなかったことができるようになっていくような、質の高い利用が実現できるようにしたい。今後20年程度のホールとして改修では不足するというのであれば、建て替えという選択肢も出てくるが、事務局としては、今説明した改善ができれば、今後20年のホールに求められる機能は満たせるのではないかと考えている。もちろん会議室棟についても考えないといけない。

【座長】決して譲れないのは「20年」というキーワードだろう。20年後にこのあたりは大規模な改変が来る可能性がある。市は抜本的なことを考え、20年後のここのビジョンを持たないといけない。市としては、20年後のビジョンは決まり切っていないが、大きく変わるだろうということは予測できるので頭に入れておいてほしいということだろう。

【B委員】頭の中には改修のイメージがあるが、それを出していいのか、方向性はあっているのかという確認のための発言だった。今後、あと2、3回の会議では、このような話を進めていくということが良いか。

【座長】今の話からすれば良いだろう。ただ、その観点の中で、20年とはいえ、抜本的なリニューアル以上の何かが必要なのではないかという話になれば、松竹梅で、お金

があればここまで、という提案が出てくるのは良く、やや具体的なところに攻めていって良いのだろうと思っている。

【副座長】B委員の意見はよく分かる。だからこそ自分は前回建て替えの発言をした。仮設とまでは言わないが、他自治体でも新しい劇場を建て替える間に、それほど大きなコストをかけずに新たな施設をつくるという例はあった。あくまでもここは集会施設として建設されたので、文化的な活動が増えてきたことに応えられていないのではないかということだ。今使っている人が使いやすく、というのは最低限やるべき。バリアフリーは当たり前で、今後20年使う人のことを考えて未来に託していかなければならない。

資料2「解決方法の例」について、EVでは費用もメンテナンスも必要。段差なく舞台に入ることができるよう、トラックの入れるスロープにしてはどうか。

【事務局】EVの他にリフトの可能性はある。地下に防火水槽があるなど構造的な関係で、スロープを設置するだけの距離の確保が難しい。

【副座長】折り返しのスロープなども可能ではないか。EVのイメージが具体的でないように感じられる。

【座長】建設当時は小さな敷地の中でなんとか成立させようと工夫したことが伺える。

【C委員】今は会議や研修等がコロナによって、オンライン化しているが、それも一種のバリアフリーではないか。会議室は規模次第で他で代替可能だろうが、ホールはデジタル対応で、外でつながれる、中でつながれる、というような新しい仕掛けを作ってほしい。色々な人の希望を全て叶えるというのは難しい。棲み分けというか、吉祥寺シアターはこう使える、公会堂はこう使えるというのを周知してはどうか。市の事業等で使うにあたって、安全な楽屋と快適な座席は確保したい。質問だが、今回の提案で移動観覧席にするというアイデアがあるが、これによるランニングコストなどデメリットはあるのか。

【事務局】コストについては、市でもスイングホールで移動観覧席を導入しているが、大体年間50～100万円前後が保守等に関するコストとしてかかるだろう。電動設備の故障を防ぐため、移動観覧席では飲食禁止にしている施設もあるが、設備の使用や運用次第であり、一切飲食禁止というわけではない。

【D委員】2つ意見を言いたい。1点目、今日施設を見て、これは建て替えないと中途半端ではないかと思った。一方で、自分は元々建築を専門にしているが、20年の中でどうするのかということでは、レトロな雰囲気のホテルであることを売りにして、最低限を残してあとは直すという方法もある。また、20年というのが微妙であり、「20年を仮設で」というのは厳しいのではないか。吉祥寺は人気のある街で、にぎわいは維持できるだろうが、20年後に今と同じような雰囲気で開発をすべきか考えるべき。改修の場合には、同時期にできたホールの改修事例も参考になるだろう。神奈川県立図書館・音楽堂は前川建築を残そうと改修し、西山卯三設計の徳島県郷土文化会館の改修の際は、元々屋外広場に階段状でつながるプランだったものの、そこをつぶしてロビーを広げているが、今となって、本当に改修でよかったのかという議論は出ている。改修でも使い勝手は良くなるだろうが、本当に良いのかは検討が必要。

2点目、移動観覧席は確かにありだろう。昔と違って、最近のものは使い勝手が良くなっている。吉祥寺シアターも段床客席の取り外しが可能。ただ、平土間にしたときの動線が心配であり、元の客席の形状でないとロビーからの動線は取れないのではないかと。

【座長】世田谷区民会館はロビーを作り替え、ホールは前川國男建築を残した。このように改修事例はあるが、新築と比較すると制約が生じる。

【事務局】平土間にした時の動線について、会議室棟をそのまま残すのでは難しいため、駐車場部分に会議棟を整備したときに会議室棟での確保と、ロビーへのEV設置が考えられる。

【座長】客席を小さくしてホール内両側の通路という手もあるだろう。細かい点だが、ホール両側の窓は必要か。

【事務局】カーテンを開けた形での利用は多くない。残す場合も、二重サッシへの変更や、防音を考えてガラスを取るという可能性もある。

【座長】コンサートヘボウ（オランダ・アムステルダム）には窓があるが良い空間であり、窓を開けて使った方が使い勝手がよかったという事例がある。窓があるということで集会機能を重視されていた様子が見受けられる。音楽は窓があっても良いが、演劇はできない。集会とちょっとした音楽に向いているホールであるのだろう。窓のある市民会館は初めて見た。防音を考えると、窓でない選択肢をとっても良いのではないかと思う。ここから音が漏れるというのが問題。昔は音が漏れても大丈夫だったのだろうが、なるべく音を閉じ込めることを前提にしてはどうか。

【E委員】資料3の用途表の演劇系の「伝統芸能」というのは何を想定しているのか。

【事務局】落語、寄席を想定している。項目を修正する。

【E委員】利用者目線でのお願いで細かいことだが、資料2について楽屋は全て防音にした方が使い勝手がよく、楽屋の大きさにはバリエーションがほしい。楽屋は、現状では会議棟の全ての部屋を使わないと足りないような利用もある。楽屋から会議室棟への裏動線も必要だろう。日舞だけでなく、ダンス利用でも同様で、今と同じ動線だと同じ事が生じる。改修では難しそうだと考えていた。

【座長】会議室棟があるということが、このホールの使い勝手を高めている一面があるということだろう。控室・作業室として使える部屋とホールが同居していることが良いのだろう。だからこそ、そういう点では市民の発表会での使い勝手が良いのだろう。

【E委員】市民が来やすいことは良いが、人を集めるとそれだけ部屋が足りない場合もある。

【事務局】楽屋の不足への対応について、資料2は改善案Ⅱで地下にクローズアップして資料をまとめている。1階レベルや2階レベルにも会議室兼楽屋を設けられるため、貸し切りのような形で今と同じような利用ができ、舞台までの動線も確保できる。逆に、今の会議室棟を残した場合、動線は検討が必要となる。

【D委員】ホールのガラスについて、カーテンを開けての利用はほとんど無いということだった。ホールは響きが足りないが、これはカーテンをしていることが原因だろうから、重量ブロックでふさいで音響を確保した方が二重ガラスより良いだろう。

【B委員】会議室関連は次回ということだが、資料4を見ると、ホールと音が出せて楽屋に使える会議室の需要はどうか、という内容である。話が堂々巡りにならないように、事務局は意図をきちんと説明してほしい。

【事務局】資料4について、狭いスタジオは民間に多いが、公共施設は少ない。ホールと一緒に使える楽屋はスタジオと別に確保が必要。資料2では地下のみのブロックプランだが、今後改修についての検討に入った場合、会議室棟の南側への増築のシミュレーションを示したい。第1回で地下1階と地上1階を示したが、必要な諸室の数や広さによってもう少し規模を大きくする可能性もある。

【F委員】B委員と同様、考えていることはあるが、建て替えとなるといくら話をしても無駄になってしまう懸念がある。そこが最終的にどうなるかが決まるまでは話をする時間が勿体ない。委員の中では、吉祥寺地区の商業者の代表として出席していると認識している。全て税金で賄われることを考えると、商業者の立場からは、20年で利用が終わることを前提として「建て替え」という選択は無いのではないかと。費用対効果を考えると、改修の方が負担は少なく、納得感が高い。また、工事による空白期間をできるだけ短くし、今あるニーズに今よりも応えられるような対応をする方が、税金の投入効果としても、税金を負担している側からしてもよいのではないかと。自分は吉祥寺駅北側の人間だが、実際に南側の再開発に関わるステークホルダーからはそういう意見も出るのではないかと。20年後までという前提であれば、建て替えか改修かをできるだけ早く決めてほしい。

【座長】20年という期間の見方について、良い話をいただいた。20年で元をとるのは建物として深刻な要求である。

【A委員】自分は古い建物の再生を専門としている。先日配布した雑誌のP76に清瀬けやきホールがあるが、コンクリートの寿命を測定したところそこから50年持つということだった。構造的にも問題無くできるだろう。機能については、ある程度の制約はあると思うが、新築でも100%満足する施設は難しいので、妥協点を探す。

また、前年度検討で出された再生案が陳腐である。重量等、検討をすべきだろう。

【事務局】既存の会議棟も残す案については、市側で改めて検証をして、次回会議に向けて詰めていきたい。特に地下の機械設備の改善が一つの課題。

【副座長】何が何でも新築にしたいわけではなく、いまのニーズの中で建て替えるか、最低限の改修かを考えた場合、最低限の改修案が面白くなかったということ。

【事務局】令和2年からの検討では、公会堂が築60年を迎えるにあたって、建物を調査したところ、築80年を目指せるコンクリートであることが分かった。建て替えの時期をずらすことで財政負担を平準化したいという意図もある。今後の設計段階では、公開プロポーザル等で、事業者からわくわくするようなデザイン提案をしてほしいと思っている。吉祥寺の駅に近い敷地で、少し手を入れた程度では納得されないだろう。要求水準をどこに設定するかで議論が分かれる。

【座長】有識者会議に求められる意見は、「要求水準をどこに置くか」「費用対効果の面で、延命か建て替えか。市としては延命が妥当と考えているが、委員はどう考える

か。」の2点であるということだった。要求水準もピンキリで、この敷地において暗黙の制約条件もあるだろう。なおかつ、建て替えるのであれば60～80年使う施設となることを考えると、建て替えという選択肢は難しいのではないか。ただ、「やはり建て替えてなければ」となれば、建て替えという選択肢もあるということだろう。

【D委員】先ほどの発言は、建て替えたほうが50年は持つ施設になるという意図での発言で、20年となると建て替えは厳しいと思う。市が「限られた予算の中での改修で、できるだけ良いものをつくりたい」という考えであれば、それを前提に議論した方が建設的。デザインまで入れないと見えてこない。ある種の要求水準書的な考え方をまとめて提案するのが現実的だろう。建物にしても何にしても、リサイクルしていくというのが当然の考え方。時代状況を考えて、改修の方向ならばその方向で議論してはどうか。

【F委員】限られた時間の中で、できるだけ全員で具体的な提案をするには、E委員の発言のような必要なニーズを列挙すべき。改修でどこまでカバーできるのか。前回までの議論の中で出たように、会議室棟の新築も含めた全体の中で、例えば立川のグリーンスプリングスのように上を緑化することで市民が集い、屋根の形状を間近で見ただくとか、オープンスペースの用意とか、そういうところまで早く踏み込んでこの場で具体的なイメージを作りたい。できれば早くその方向に進みたいというのが切実な思い。

【B委員】前回「改修するなら実験的なことを」と発言したが、事務局に後日補足を提出した。そこでは、改修の場合、音を出せる会議室や楽屋兼用の会議室をきちんと作れば、この近辺で音楽の練習をしたい方が利用できるだろうし、オープンスペースなり、オープンエアの空間なりをどう作れるかを含めて、どうせ改修するなら攻めの改修を、こういう現状の中で仕方なくではなく、ここまで攻めて改修したということを示せる案を作りましょう、ということに記載した。

【座長】今の話をまとめると、基本的に、全く新しく作るという選択肢も無くはないが、与えられた与条件の中で、市長に責任ある答申をするには、「改修でどこまでいけるのか」という問いに何とか答える、改修でベストまでいくのは難しいかもしれないが、どこまでいけるのかを検討するということに会の方向性を決めようと思う。ニーズについては思いついたものを事務局へ寄せてほしい。

3 事務連絡

【座長】最後に事務局から事務連絡をお願いしたい。

【事務局】（資料5に基づいて説明）8月30日から市民ワークショップを実施する。昨日まで希望者を募っており、第1回は19名の参加者の予定。また、9月以降にアンケートを実施する。

次回の第4回有識者会議は9月27日に公会堂で開催予定。

4 閉会

【座長】これにて第3回武蔵野市立武蔵野公会堂の改修等に関する有識者会議を閉会する。